

国宝の御堂が並び建つ

高田本山さんと
一身田寺内町を歩く

津市

一身田町

津市一身田町には、真宗高田派本山の専修寺を中心に、末寺や風情ある町並みが続く一画があり、一身田寺内町と呼ばれます。寺内町とは、15世紀の終りごろから16世紀の中ごろにかけて、真宗の寺院を中心としてつくられた自治都市のこと。周囲には環濠が巡らされているなど、一般的な門前町とは趣が異なります。

今回は、昨年に御影堂と如来堂が国宝に指定された専修寺と、一身田寺内町を歩きます。

取材・文：中村真由美

今が
見頃

高田本山専修寺のハス

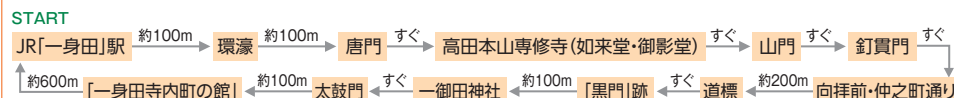
6月下旬から8月上旬ごろ、専修寺境内には、ピンク色や白

色など、優美なハスの花々が咲き誇ります。



今回の案内人は「一身田寺内町ほっとガイド会」の岡本 靖弘さん。伊勢木綿の半纏(はんてん)を着て、穏やかな語り口で丁寧に話す姿は、訪問者を和ませてくれます。

■ 行程図 所要時間／約2時間 ※所要時間は、おおよその目安です。



日本で唯一、完全な形を残す環濠

今回の散策は、JR「一身田」駅から始まります。駅舎を後にして東へ数分進むと、幅1メートルほどの濠が見えてきました。「これが環濠です。以前は幅が3間(約5メートル)あり、土手が築かれていました」と教わります。

一身田寺内町の特徴の一つが、周囲を巡る環濠です。規模は東西約500メートル、南北約450メートル。お話し通り、その幅は変わりましたが、日本で唯一、完全な形で残る環濠として



毛無川の流れを利用した環濠



唐門



如来堂



御影堂

知られています。かつては出入口は3か所だけで、それぞれに橋が架けられていました。橋の内側には門が建ち、暮れ六つ(午後6時)から、翌朝の明け六つ(午前6時)までは閉じて、通行を禁じていました。環濠は、防御の役割も果たしていたのです。

「安楽橋」のすぐ南側には、京都方面への西の出入口である「桜門」がありましたが、今回は、カラー舗装された道路をそのまま東へと進みます。すると、左手に大きな門が現れました。専修寺の唐門(国指定重要文化財)です。扉に

施された見事な彫刻などが、格式の高さを物語ります。この門は、勅使門(天皇の意思である勅旨を伝える勅使が通る門)でした。

国宝の如来堂と御影堂

現在は、一般に開放されている唐門をくぐると、目の前に現れるのが、阿弥陀如来立像を本尊とする如来堂です。東隣には、御影(みえい)開山・親鸞聖人の坐像、歴代上人の画像を安置する御影堂が並び建ちます。荘厳な造りの両堂は、昨秋、三重県内の建造物で初めて国宝に指定



山門



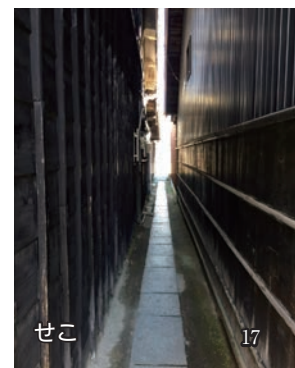
釘貫門



仲之町通り



道標



せこ

されました。およそ3万坪の広大な境内には、ほかにも親鸞聖人の御廟や鐘楼などが建つほか、県指定史跡・名勝の庭園「雲幽園」や宝物館などが揃います。人々が、敬愛の気持ちを含めて、高田本山さんと呼ぶ高田本山専修寺の歴史は、寛正5(1464)年に遡ります。十世真慧上人が、東海・北陸地方の布教活動の中心として建立した無量寿院が前身です。その後、現在の栃木県の高田にあった高田山専修寺が戦火にみまわれたことで、ここが真宗高田派の中

心となったのです。

見どころが多い専修寺を後にして、御影堂前の山門(国指定重要文化財)をくぐると、すぐ南側に見えるのが釘貫門です。この門を境に寺内(寺領)と、町家がある地下に分かれていました。人々が、門の外から御影堂に向かって拝んでいたことから、その名が付いたという向拝前(ごはいまへ)から東へ延びる通りは、途中から仲之町通りと名称を変え、さらに続きます。通りの両側には、和菓子屋・荒物屋・衣料品店などが軒を連ね、

「まちかど博物館」として公開している店舗もありました。

「一身田寺内町の館」で ほっと一息

仲之町通りで「せこ」と呼ばれる細い路地などに郷愁を覚えながら歩いてみると、三叉路に立つ道標に気が付きました。3方向に街道名が刻まれ「右江戸みち」「左御堂并京道」「右さんくう道」と読み取れます。この中で「御堂」は専修寺の御影堂のこと、そして「さんく

う道」は、伊勢神宮へと向かう街道のことだと教わります。津市の江戸橋から、関宿(亀山市関町)の東の追分にいたるまでの「伊勢別街道」が、町の近くを通っていたのです。

道標のすぐ南には、3か所の門の一つである「黒門」がありました。街道を行く多くの人々が、専修寺参詣のために、この門から出入りしたことでしょう。橋の南側に広がる橋向(はしむかい)には、芝居小屋や茶屋などが建ち並んでいたといえます。

「一身田寺内町の歴史を知るには、一身田神社の存在も欠かせません」との案内で、「黒門」跡から北へ向かいます。同社は、一身田寺内町が形成される以前からある神社で、古い棟札などが残ります。その中で、天正20(1592)年の棟札に「寺内」の文字があることから、このころにはすでに町が形成されていたことがわかります。

一身田神社に手を合わせた後は、再び方向を変え、以前は、町の人々に太



一御田神社



太鼓門



「一身田寺内町の館」

鼓で時を知らせていたという専修寺の太鼓門(国指定重要文化財)を眺めながら、南へと歩きます。すると、広い通りへ出ました。板塀や長屋門など、今も伝統的な景観が残る寺町通りです。この風情ある景観の一面にたたずむのが「一身田寺内町の館」です。館内には、写真パネルや復元模型などが展示されているほか、休憩スペースもあります。散策の途中で、ほっと一息つくのもいいでしょう。

専修寺と一身田寺内町の散策は、寺

問「一身田寺内町ほっとガイド会」

(一身田寺内町の館)月曜日休館
TEL 059-233-6666

町通りを西へと進み、JR「一身田」駅で終了ですが、駅舎を越えて北西へ数分歩くと、「伊勢別街道」沿いに建つ、高さ約8メートルの窪田の常夜燈を見ることが出来ます。

なお、専修寺境内の詳細な案内を希望する場合は、専修寺進納所(TEL 059-236-5701)までお問い合わせください。